



2020年3月30日

各位

会社名 株式会社フィードフォース
代表者名 代表取締役社長 塚田 耕司
(コード番号：7068 東証マザーズ)
問合せ先 取締役経営管理本部長 西山 真吾
(TEL. 03-5846-7016)

営業外費用の計上及び連結決算開始に伴う連結業績予想の公表並びに 個別業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年5月期第3四半期において、営業外費用を計上しました。また、2020年5月期第3四半期より連結決算に移行しましたので、新たに2020年5月期の通期連結業績予想を公表するとともに、最近の業績動向を踏まえ、2019年7月12日に公表した通期個別業績予想を修正しましたので、併せて下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外費用の計上について

当社は、2020年1月10日付「資金の借入に関するお知らせ」のとおり、アナグラム株式会社（以下、「アナグラム」）の株式取得等のため1,850百万円の借入を行いました。この借入に際して、その取扱いに係る手数料を損益計算書の営業外費用（支払手数料）として38百万円を計上しました。

2. 連結決算開始について

当社は、2020年1月10日付「子会社の異動を伴う株式取得（アナグラム株式会社の連結子会社化）に関するお知らせ」のとおり、2020年1月にアナグラムの50.1%の株式を取得し子会社化いたしました。これに伴い、2020年5月期第3四半期より連結決算へ移行しましたので、新たに通期連結業績予想を公表いたします。

3. 2020年5月期連結業績予想（2019年6月1日～2020年5月31日）

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
通期	1,470	420	350	300	130	23.49

- (注) 1. 2019年5月期は連結決算を行っておりませんので、対前年増減率は記載しておりません。
2. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額
3. 1株当たり当期純利益は予定期中平均発行済株式数により算出しております。

4. 連結決算の概要

上記の連結業績予想は、「5. 個別業績予想の修正（2019年6月1日～2020年5月31日）」に記載の個別業績予想の数値に、2020年5月期第3四半期より当社の連結子会社となるアナグラムの2020年1月から2020年5月までの5カ月分の業績予想を織り込んだ数値となります。

また、2020年5月期第3四半期連結会計期間に計上したアナグラムの株式取得に伴うアドバイザー費用等に加え、同社の連結子会社化により生じるのれん及び無形固定資産の計上に伴うのれん償却額及び減価償却費等の予想も織り込んでおります。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益及び1株当たり当期純利益の予想については、当社はアナグラム株式の50.1%を取得しているため、非支配株主持分による影響があります。

5. 個別業績予想の修正（2019年6月1日～2020年5月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回予想（A）	989	235	232	161	29.09
今回修正（B）	930	150	100	90	16.26
増減額（B－A）	△59	△85	△132	△71	-
増減率（％）	△6.0%	△36.2%	△56.9%	△44.1%	-
（ご参考） 前期実績 （2019年5月期）	700	45	34	43	8.77

（注）1株当たり当期純利益は予定期中平均発行済株式数により算出しております。

6. 個別業績予想の修正理由について

2020年5月期第3四半期におきまして、各サービスにおける進捗状況やアナグラムの株式取得に伴う費用増加に加え、昨今の経済状況を踏まえて通期の進捗を見据えた結果、2020年5月期通期の個別業績予想を、売上高930百万円（前回予想比6.0%減）、営業利益150百万円（前回予想比36.2%減）、経常利益100百万円（前回予想比56.9%減）、当期純利益90百万円（前回予想比44.1%減）に修正いたします。各予想金額の修正理由の詳細については、以下のとおりです。

（売上高）

プロフェッショナルサービス事業においては、売上高460百万円（前回予想比1.5%減）に修正いたします。2020年5月期第1四半期において「DF PLUS」での主要顧客の解約の影響があり2020年5月期第3四半期累計期間において当初計画から24百万円程度下回っているものの、「Feedmatic」では30百万円程度計画を上回っていることから、プロフェッショナルサービス事業セグメント全体としては概ね計画通りの進捗となっております。しかしながら、昨今の経済状況を踏まえ広告主の出稿額の減少を想定しております。

SaaS事業においては、売上高470百万円（前回予想比9.8%減）に修正いたします。2020年5月期第3四半期の時点においては、「dfplus.io」及び「ソーシャル PLUS」は概ね計画通りの進捗であったものの、「EC Booster」では期中における顧客獲得数や利用後の継続率が当初の想定を下回って推移したことにより、2020年5月期第3四半期累計期間において当初計画から18百万円程度下回っており、また昨今の経済状況を踏まえて営業活動での停滞が継続する可能性があることから今後の契約獲得数の減少を想定しております。

（営業利益）

費用面においては、2020年5月期第4四半期にかけて採用による人件費の増加を見込むほか、アナグラムの連結子会社化に伴う監査報酬やセキュリティ強化のための外部ツール導入等管理費用が増加する見込みとなることから当初の想定よりも費用増加を想定しております。

この結果、営業利益予想は、売上高で59百万円の減少、営業費用で26百万円の増加を見込むことにより、前回予想を下回る見込みとなりました。

（経常利益）

2020年5月期第3四半期において、アナグラムの株式取得のため、金融機関からの借入れによる1,850百万円の資金調達を行いました。当該借入れに係る手数料を営業外費用として38百万円計上したほか、支払利息の増加を想定しております。

この結果、経常利益の予想は、営業利益の減少予想に加え、営業外費用で51百万円の増加等を見込むことにより、前回予想を下回る見込みとなりました。

（当期純利益）

SaaS事業の各サービスの機能開発等における人件費等をソフトウェアとして税務上課税所得に加算計上してきており、一定の将来減算一時差異が存在します。今後も安定的に課税所得の計上を見込んでいる

ことから、合理的な見積可能期間における将来減算一時差異のスケジューリングに基づく繰延税金資産の回収可能性を加味しております。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上